

## 対人配慮と言語表現 ―若者の携帯電話のメッセージ分析―

著者	三宅 和子
著者別名	MIYAKE Kazuko
雑誌名	文学論藻
巻	77
ページ	207(16)-176(47)
発行年	2003-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00012768/">http://id.nii.ac.jp/1060/00012768/</a>



# 対人配慮と言語表現

## —若者の携帯電話のメッセージ分析—

三宅和子

### 1 はじめに

本稿は、新しいコミュニケーション現象として取り上げられることの多い若者の携帯電話<sup>(注1)</sup>の利用実態と言語表現の内容を検討し、対人関係の配慮行動がどのように実現されているかを考察する。

現代日本語研究の重要な意義のひとつは、日本語の現在の姿を捉えて未来を予測するということにある。現代社会は電子情報技術の飛躍的な発達により、情報のグローバル化、パーソナル化が同時に進行し、コミュニケーション変容が問題化しつつある。このような変化の真っ只中を生きる若者や若者の言語行動<sup>(注2)</sup>をつぶさにみていくことは、現代語研究に有益な示唆を与えてくれる。

若者の携帯電話利用と対人関係に関しては、これまでに社会学や情報学などを中心にかなりの研究が積み重ねられている。これらの研究の観点を、本稿のテーマとの関連で捉え直すと、大きく以下の2つに分けられる。

ひとつは、「現代の若者は社会生活の中で他者とどのような関係性を結んでいるのか」という観点であり、若者論、あるいは若者の人間関係論ともいえる。議論の流れは80年代あたりから、若者の「関係希薄化論」から「選択的關係論」、そして「多元的關係論」(筆者の命名)という方向へ進んでいるとまとめられよう。「関係希薄化論」とは、高橋(1988)、千石(1994)、大平(1997)などの主張にみられるように、若者が相手との対立を回避し、深い関係になることを恐れる対人行動をとっているとするものである。これに対し松田(2000)は、若者がネットなどを通して特定の興味や関係でつながる状況を「部分的だが表層的でない対人関係」と解釈し、「選択的關係論」を主張した。松田のように人間関係を

【深い—浅い】【濃い—薄い】の尺度で捉えない見方は辻（1999）にもみられ、【重い—軽い】の尺度を用いて、若者の対人関係は「拘束される範囲を限定した軽い関係」であるとした。いっぽう岩田（2001）はこれらの論を検討し、若者の「選択的な関係性と関連した自己の使い分け」に注目した。そして電子メディアで結ばれる若者の親密さを「即時的親密さ」ととし、従来言われてきた「親密さ」の質に変容があるのではないかと考えた。このような議論は岩間（1995）にもみられる。筆者はこれを「多元的關係論」と名づけ、これまでの一元論的議論では若者の世界と対人関係が捉えられない時期にきていると考えている。

もうひとつの観点は、「若者は携帯電話を通してどのような対人関係の場を実現しているのだろうか」というものである。若者が携帯電話で形作る世界をフルタイム・インティメート・コミュニティと表現されることがある（仲島、姫野、吉井 1999）。これは普段から会っている少数の仲間に対してその関係をさらに緊密化するような方向、いわば内向きの関係の共同体をさしている。携帯電話利用には、少数の親しい友人と24時間一緒にいるような関係の志向がみられるというわけである。さらに、携帯電話の内容分析からは、コンサマトリー性<sup>(注3)</sup>が指摘されている。彼らの連絡の主な内容は、何か特別な目的があるのではなく、その時々のお出来事を報告したり、今起こっていることを実況したり、自分の感情を伝えたりすることである。つまり、ここでの若者の主な関心は相手との関係性を快く保つことにあり、情報伝達そのものにはないのである。これらの議論から浮かび上がる若者像は、一握りの親しい友人と、取り立てて必要でもない連絡を携帯電話で四六時中交わして親密さを確認しあっている、といった姿であろう。

本稿はこれらの論考を参考にしつつ、言語研究の立場から、これまで触れられることが少なかった側面や現象に光を当てたい。例えば、これまで若者の友人との関係に焦点が置かれがちで、それ以外の対人関係については言及が少なかった。確かに携帯電話利用の相手は友人が多いことが各種の調査で分かっているが、友人以外の相手もいる。コミュニケーションの全体像をつかむには、若者以外の相手との関係を考える必要がある。さらに、どのような内容のコミュニケーションがなされているか

という視点からの研究もまだわずかである。本稿では若者が携帯電話でコミュニケーションをとっている相手全体を取り扱い、その言語内容を検討する。

若者の電子文字メディアへの傾倒と対人関係について考察した三宅(2001)では、若者が携帯メール<sup>(注4)</sup>に傾倒する理由を「会話に際しての配慮」の負担の軽減、「人との距離」のとり易さにあることに求めた。本稿ではこの考え方から出発し、2002年に行ったアンケート調査をもとに、若者の対人関係にみられる配慮の意識と、それが言語表現内容とどのように結びついているかを考察する。

## 2 携帯電話の利用実態

2002年7月に若者の携帯電話利用の実態をみるアンケート調査を行った。ここではその調査を踏まえた分析を行う。参考のためアンケートの調査票を巻末に添付する。

### 2-1 アンケート調査

この調査は二部に分かれている。前半部は若者たちの携帯電話の依存度、相手に対する配慮意識を聞いたものである。後半部は、携帯電話に実際に残っている内容を書いてもらい、異なる相手への言語スタイルの変化をみたものである。前半は意識調査、後半は生データに近いデータの採集調査<sup>(注5)</sup>である。

調査は2002年7月に東洋大学の1～2年生を対象とする日本語概説のクラス<sup>(注6)</sup>の学生に実施し152人の有効回答を得た。

回答者：全152名（女119名、男29名 性別不明4名）

回答者年齢：平均18.8歳（18歳～21歳 147名 22歳以上3名 不明2名）

利用携帯電話：docomo 83名 J-phone 33名 au 31名 その他3名  
不明2名

### 2-2 携帯電話への依存度

若者は携帯電話を毎日どの程度、どのように使っているのだろうか。

まず携帯メールの送受信回数を聞いた。

メールの送信回数は約7割(68.4%)が1日0～10回だが、1日に100回は送信するとした回答者もいた。平均すると12回である(図1)。受信も約7割の回答者(65.8%)が1日0～10回だが、100回は受信するという回答者もいた。平均すると12回で、受信とほぼ同様である(図2)。

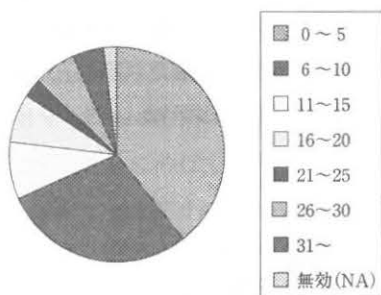


図1 メール送信回数

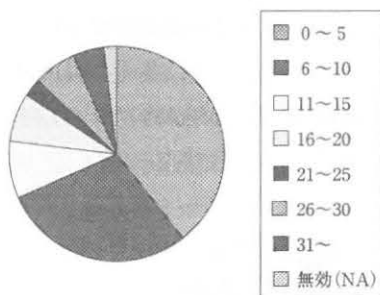


図2 メール受信回数

次に送受信にどの程度時間を使っているかを聞いた。送信メッセージを打つために使う時間は0～30分が約8割(80.3%)を占めるが、1時間半から2時間使う回答者もいる。平均すると24分である(図3)。いっぽう受信メッセージを読む時間は、約7割(72.4%)が0～10分と短い。平均は16分になる(図4)。受信時間が送信時間よりかなり短いのは、読むだけのほうが打つよりも速いことによると思われる。

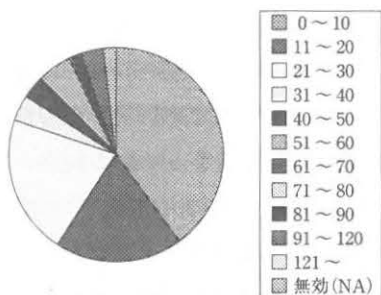


図3 メール送信時間(分)

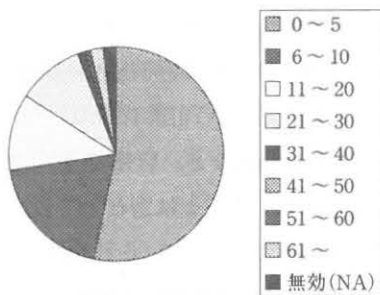


図4 メール受信時間(分)

携帯電話を使ってどの程度通話をしているかをみた。ひところ電車や公共の場で携帯電話で話す若者に非難が集中したが、最近は若者の通話

している姿はめっきり少なくなった。若者の間で普及が100%近くになって日常に定着すると、状況を見て着メロをバイブに切り替えたり、通話をやめてメールのみを使ったりなど、TPOのマナーも日常的に自然に行われるようになった。若者の間では「連絡はメール中心」というのが定着してきている。

今回の調査でも通話回数はたいへん少なかった。約8割(76.9%)が1日に0～2回で、多くても10回以内、平均1.7回であった(図5)。通話時間は10分以内が約8割(77.6%)、1時間以上が2名であった。全体の平均は10.3分である(図6)。

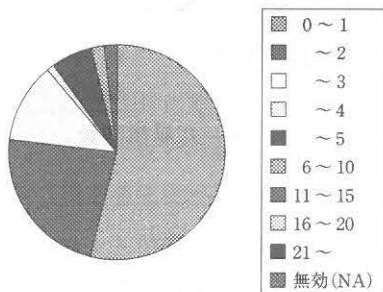


図5 通話回数(回)

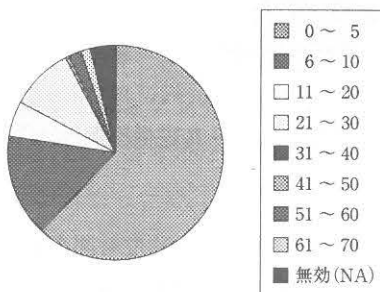


図6 通話時間(分)

以上をまとめると、携帯メール送受信と通話の回数の比率は約7倍と、メール利用が圧倒的に多くなっている。また使用時間はメール送受信に40分、通話に10.3分で、メールに使う時間が通話の約4倍であった。1日の活動時間の1時間弱を携帯電話を利用したコミュニケーションに費やしているという計算になり、その大部分がメールによる。大学生の自宅学習や手紙など、自筆で書くことが極端に少なくなっている現在、(ノートをとるなどは別としても)彼らの「書く」ことの大半は、この携帯メールで行われている可能性が強い。話すような書きことばがレポートや卒業論文に現われる原因<sup>(注8)</sup>の一端を、携帯電話利用が担い始めている、といっても過言ではないだろう。

携帯電話は現在、通信メディアという位置づけからマルチメディア的情報端末としての位置づけに変化している。通信以外の機能をどの程度使っているかを調べた。図7で示すように、回答者の使い方にもマルチ

メディア的利用がよく現れており、9割が時計代わりに(90.8%)、8割が目覚まし・スケジュール管理に(82.2%)、7割が電卓として(67.1%)使っている。またウェブ情報を見たり、音楽などのダウンロードをする割合も5割を越えている(それぞれ50.7%、57.2%)。

これらの時間を総合すると、1日に1～2時間、あるいはそれ以上携帯電話で何かの行動をとっている回答者が全体の6割弱(56.6%)いることになり、睡眠、食事以外の生活時間中に占める割合は、かなり大きい。また、電源を24時間入れたままにしている回答者が全体の8割近く(77.6%)にのぼり、残りの2割(19.8%)も18時間以上である。18時間と答えた回答者は就寝中のみ切っているという答えが多かった。このことは、若者は基本的に24時間「待ち受け状態」で、連絡を待ったり情報を受け取ったりしている、ということができよう。

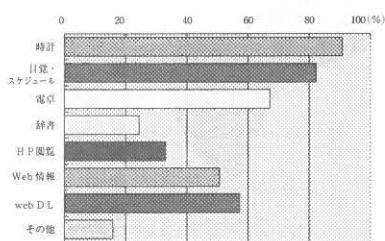


図7 携帯電話のマルチメディア機能利用

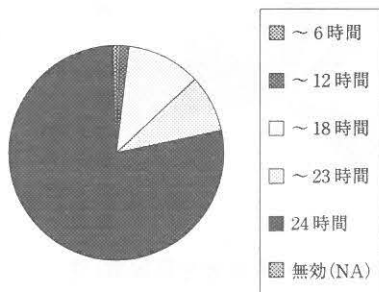


図8 携帯電話の電源 ON 時間

次に携帯電話に登録している電話番号の数とメールアドレスの数を調べた。登録数を25件ずつに分けて集計した結果、電話番号の登録はばらつきが大きく、1割以上の回答者は25件以下だったが、200件以上登録している者も11名いたことがわかった。平均すると97.6件の登録数であった。いっぽうメールアドレスの登録は0から100件までのものが大勢を占め、平均すると68.9件である。電話番号を登録する相手の中には、メール機能をもっていなかったり、契約していなかったり、メールの使い方がわからなかったりする者がいるため、電話番号の登録数より少なくなっている。この結果は、内閣府(2002)の調査で得られた18～22歳の電話番号登録79.0件(女性のみでは83.3件)、メールアドレス登録42.7件

(女性のみでは48.4件) よりかなり多い数字である。同調査では大学生以外の青少年が含まれていたことが原因しているのかもしれない。

さらに、メールアドレス登録をしている人に連絡する頻度を調べたところ、1日に1回は連絡する相手が0～5人程度であるとしたのが94.0%にもなった。3日に1回程度連絡する相手が0～5人いる回答者は80.8%、週に1度連絡する相手が0～5人いる者は85.5%である。アドレス登録をしている相手の約7割は、1ヶ月に1回以下の頻度で連絡する相手であり、約4割はほとんど連絡しない相手であった。このことは、若者の連絡相手はアドレス登録数の多さにもかかわらず、わずか一握りであり、その意味では確かに、フルタイム・インティメート・コミュニティを作り出すような人間関係であることを示している。

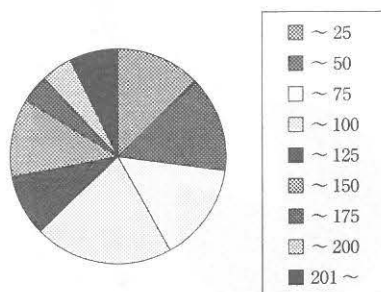


図9 電話番号登録数(件)

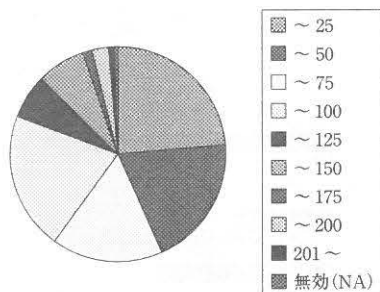


図10 メールアドレス登録数(件)

以上のデータを総合して考えると、現代の若者の生活がいかに携帯電話に費やされているかがわかる。また携帯電話を通して、物理的には眼前にない、離れた所の情報や人とのコミュニケーションを24時間待ち受けている、という若者の携帯電話への依存の高さが明らかになってくるのである。

## 2-3 携帯メールにおける対人配慮

若者のメールを出す相手としては、親しい友人に対するものが多く、フルタイム・インティメート・コミュニティを形成しているといういい方がされる。しかし友人だからといってメールの内容に気をつかわずにいられるわけではない。学生たちとの談話で携帯メールが話題が上る



と、そのことばの端々にメールの内容に気をつけていることが感じられる。そこで今回の調査では、メールを送る際にどのようなことに気を付けているかについて、自由記述で聞いてみた。

回答の内容をみると、相手との関係づくりに関する配慮について述べているものと、言語形式に関する配慮について述べているものとに大別することができた。前者を「A. 関係づくりへの配慮」、後者を「B. 言語形式への配慮」として説明する。

#### 〔A. 関係づくりへの配慮〕

関係づくりに配慮して書いているといった記述を全回答者の35%がしていた。さらに、その中の63%には「そっけなくならないように」「不快感を与えないように」「冷たくとられないように」などといった「～しないように」「～にならないように」という表現が用いられていた。関係づくりを配慮するのなら、「読んで楽しいように」「感情がうまく伝わるように」といったような、相手に対して何か楽しくなるような、ポジティブ方向に効果的な言動をとることも考えられよう。事実そういう配慮に言及する例もみられた。しかし、何か問題になるようなことを避ける、不快にさせることを避ける、というネガティブ方向の考え方、ネガティブ効果を回避するストラテジーが使われることのほうが多いという結果であった。ここでは、このような配慮の仕方を「ネガティブ配慮」と呼ぶ。若者の親しい友人を中心にしたコミュニケーションの中にも、このような「ネガティブ配慮」が大きな位置を占めていることは興味深い。

#### 〔B. 言語形式への配慮〕

言語形式に配慮して書いているという回答者は全体の32%であった。ここでも、その中の44%には「主語を抜かさないように」「間違った表現をしないように」「誤字がないように」などの表現が使われていた。「～しないように」「～にならないように」といった、ネガティブな効果が出ないように配慮する「ネガティブ配慮」が現れていたわけである。「ポジティブ配慮」の、「意味がはっきり分かるように」「相手にわかりやすく」などとほぼ同じ数の「ネガティブ配慮」がみられた。

AとBの配慮の内容を合わせると、54%の回答に「ネガティブ配慮」が現れており、相手に働きかけるというよりも、相手を傷つけない・不快にさせないことに若者が気をつけていることが明らかになった。

このことは、日本語のポライトネスの概念と関連づけて考察すると面白い。Brown & Levinson (1987) は、世界の言語行動に普遍的にみられる対人関係調節の概念として、ポライトネスを導入した。ポライトネスを遂行するための主要なストラテジーとして、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとネガティブ・ポライトネス・ストラテジーがあげられる。ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとは、相手の何かをほめたり、相手を楽しくさせたり、相手との共感を強調するようなストラテジーである。いっぽうネガティブ・ポライトネス・ストラテジーとは、相手の負担の度合いを軽減するよう、押し付けがましくないよう、相手に逃げ場を与えるようなストラテジーをいう。日本人のコミュニケーションにはこのネガティブ・ポライトネス・ストラテジーが頻繁にみられることがしばしば指摘されている。例えば談話レベルの例であるが、贈り物をするときには相手の負担にならないように「つまらないものですが……」といったり、依頼をするときに相手が断りやすいように「お忙しいことは分かっておりますので、とても厚かましいお願いなのですが……」などと前置きをしたりすることがあげられよう。

今回の調査の配慮のところで多くみられた「ネガティブ配慮」は、このBrown & Levinsonのネガティブ・ポライトネス・ストラテジーと同じ役割を果たしているといえる。これはとりもなおさず、若者の友人を中心としたコミュニケーションの場においてさえも、対人調整のためにネガティブ・ポライトネス・ストラテジーの規範が強く意識されているということである。とかく対人関係や社会行動を批判される若者だが、その言語意識には「日本的」といわれる配慮の規範が息づいている。

## 2-4 携帯メールの相手カテゴリー

ここでは、異なる相手に対して言葉づかい、表現スタイルを変えているかどうかを考えてみたい。アンケートでは、言葉づかいを変える相手は何種類くらいで、具体的にどのような人たちかを聞いている。言葉づ

かいを変える相手として最も多くあがったのが、家族、友人、目上のカテゴリーであった(表1)。その中でも友人と目上カテゴリーが特に多く、このカテゴリー間で言葉遣いの切り替えが特に意識されていることが分かる。また友人カテゴリーの中では、親しい友人か、あまり親しくない友人かで言語スタイルを変える意識が強いことも分かった。目上カテゴリーの中では目上と先輩の区別がある。目上とは主にアルバイト先の上司、そのほかは大学以外で接触する年上の人間であり、先輩とは主に大学のサークルなどの活動で上下関係がある人間群である。家族カテゴリーでは、両親に対してと姉妹・兄弟に対してとでは表現スタイルを変えている回答者が多かった。数量的にはそれほど多くないカテゴリーだが、実際に使っている表現スタイルをみると、かなりの違いがみられたため、異なるグループと考えたほうがよさそうである。

どのような相手に対しても同様な言葉づかいをすると答えたのは24件で、全回答者の16%であった。また、「恋人」に対して言葉づかいを変えるとするものは23件であった。この「恋人」の数の少なさは、アンケートという公的な調査であることや、実例の記述が後に求められたことにより、回答を控えてしまった回答者がいたためと考えられる。

なお、表現スタイルを変える相手カテゴリーの数は平均で3.23であった。若者はメールの中で平均3種類くらいの書き分けをしているということができよう。

表1 表現スタイルを変える相手カテゴリー (人数順)

- ・友人カテゴリー：168件 (友人42 親しい友人76 あまり親しくない友人40 その他 10)
- ・目上カテゴリー：151件 (目上61 先輩76 その他14)
- ・家族カテゴリー：72件 (両親・家族53、姉妹・兄弟19)
- ・どんな相手でも同じ：24件
- ・恋人カテゴリー：23件
- ・親しさカテゴリー：13件 (親しい人 9 あまり親しくない人4)
- ・目下カテゴリー：7件 (年下2 後輩5)
- ・その他：34件 (親族、仕事関係、地元の人、あまり好きではない人、その他)

### 3 携帯メールの内容分析

#### 3-1 相手カテゴリー別のメール

若者は異なるカテゴリーの相手に対して表現スタイルをどのように変えているだろうか。調査では、表現スタイルを変えたとした相手カテゴリーごとに、どのようなメールを送っているのか、手元の携帯電話に残っている送信履歴から実際のメッセージを書き出してもらった。回答者152名から得られたメッセージを分析し、カテゴリーごとの表現スタイルの異なりを詳しくみていく。

すでにみたように、表現スタイルを変える相手として強く意識されているのは、友人カテゴリーと目上カテゴリーであった。これに加えて、かなり人数の多かった家族カテゴリーを対象に、実際のメッセージを確かめていった。その結果、同じカテゴリー内でも言語スタイルにかなりの違いがある相手をさらに以下のように分けた。どちらに入れるべきか判断の基準がもてないもの（例、「友人」）は考察の対象から除外した。

表2 分析対象とした相手サブカテゴリー

家族カテゴリー	→ ①両親（含家族）、②姉妹・兄弟
友人カテゴリー	→ ③親しい友人、④あまり親しくない友人
目上カテゴリー	→ ⑤目上、⑥先輩
恋人カテゴリー	→ ⑦恋人
どんな相手でも同じ	→ ⑧無区分

こうして分類した8サブカテゴリーに送信されたメッセージの実例を以下に示す。

表3 携帯メッセージ内容（相手カテゴリー別）

#### ①【両親】

- (1) いまからかえるー。
- (2) 7:30前には着くと思う(^o^)
- (3) ご飯食べてくって言っておいてくれる？

- (4) 全部売れたよ！ 好評でした♥  
 (5) あはは。ごめんよ m(\_)\_m  
 (6) 南浦和  
 (7) もうすぐテストです。これが終わって8月になったらかえります。

②【姉妹・兄弟】

- (8) おはよ～(^^)昨日はありがとね☆バイト間に合った？  
 (9) 何の!? ビシャス？  
 (10) 今は講義なので、返信はできん× ㊦ Yoー！ ㊦  
 (11) はい、わかりました㊦！ バイトがんばってね♥  
 (12) 遅くなる  
 (13) 遅れてゴメンネも今、帰りの員の中。つ、疲れたあ～㊦  
 (14) がんば！ ダッシュダッシュ㊦

③【親しい友人】

- (15) あんがと！ (>\_<) なかなか難しい日程だねえー！  
 (16) …だいぶきつそうな(^^; こないだの余裕っぷりはどこへやら(笑)と  
 りあえず今日一日頑張りたまへ☆  
 (17) いった～ん(>\_<) ガッツさん忘れたでしょ!! マネージャーから聞いたよ!! 面倒だから持ってこないだって!?  
 (18) くお💧かつちよいい～㊦頑張ってねん㊦堂々とね!!  
 (19) 昨日はお疲れっ☆本当に謝々りまた遊びに行こうねえ～！ 今度は  
 おごって(笑)  
 (20) 昨日も一昨日も夜、雨が降ってバイト帰り散々だったヨ㊦㊦㊦しかも  
 傘壊れて最悪(T\_T;) 話しかわるけど、念願のユニフォームもらえ  
 てよかったね㊦㊦ 試合がんば㊦(≥o≤)/ 近々また皆で集まりま  
 しょう㊦  
 (21) あはは凜心配すんな～㊦  
 (22) では食そう(^^)いつも通り図書館にいて、4限後ふらりと出てくる  
 と思います。  
 (23) いやいや、オレもボロボロだけど、こうやって生きてるし㊦いつもの  
 マサオらしくねぞ!! ㊦  
 (24) うん(^^) オッカー㊦駅でまってるびよ㊦  
 (25) いま授業中～ チョーつまんね～  
 (26) 恐くないっつの㊦そのぶんだとエンドロール終わったあとの“エ  
 レベーター”観てないな㊦ 今るん㊦で家帰ってマス!! すげー楽し  
 かった～㊦洪スギだよう㊦ジョーンズ&ウィルスミ㊦㊦㊦

④【あまり親しくない友人】

- (27) ちっす！ 今日はお疲れ！ これからもよろしくネ☆(^^)v

- (28) あ、昨日まによんさんからもらいました！ ありがとうございます！  
す！ m(\_ \_)m
- (29) 今度じっくり話そうぜい(^o^) 楽しみにしとります♪
- (30) すまぬー、今日はいっしょに行けませぬ！ ごめんよー(>0<)
- (31) 久しぶり!! 8月10に恒例のクラス会です！ 吉祥寺で一す！
- (32) おう！ ひさしぶり 元氣〜? ♪
- (33) ノート木村が休んだ日のところだけコピーすればいい？

## ⑤【目上】

- (34) すいません、本日用事があるので休んでいいでしょうか？
- (35) どういたしましてです。お土産たのしみにしています。また来週お会いしましょう。
- (36) 今日バイト休みます(>\_<) 風邪引いちゃいました(-;-)
- (37) おはようございます！ 日本負けちゃったねー、先生仕事で見れなかったんですか？
- (38) 昨日は CD ありがとうございます。
- (39) 今日は寝坊したんですうん。
- (40) わかりました 宜しくお願いします。

## ⑥【先輩】

- (41) 私は行きます！ 他はバイト等で行けないようです。あとはちょっとわからないです…f^\_^
- (42) 応援ありがとうございます。先輩のおかげで良い結果が出ました。
- (43) わかりました。三日空けときます。次の日ちょっとつらいかもしれませんが(笑) 今度はちゃんと間違えないように注意して送ってます。
- (44) 今週の金曜の何時からあるんでしょうか？ 教えてください。(^^)
- (45) いえでのんびり幸せじゃないですかあ〜。バイトやんないんですかあ？ 面倒とか？
- (46) あ、行きます！ ぜひ行かせて下さい(>\_<) たのしみにしてまっす☆
- (47) 今度の金曜日テストなんで、金曜日の放課後まで出られません ；； ゴメンナサイ m(\_ \_)m

## ⑦【恋人】

- (48) 今度いつ会える?? 早く会いたいな♥
- (49) おはよ〜 寒 今日学校だよ zzz オレも疲れが取れないですわ ひとりあえず、がんばります ヒトミもお仕事がんばってな ；
- (50) なんだそりゃ? 嘘をつくにもほどがあるぜ ；
- (51) ； ;
- (52) うそ〜ん?! じゃあ終わるまで待つよ〜(\*^o^\*) ♪ 早く帰ってきてね〜★ ；

(53)おはよう☆昨日、忙しかったんだね、ごめんね；寂しいけど気にしないで頑張ってo(^\_^)o 暇だったらメールしてね♪お互い頑張ろうねw

(54)ゴメンナサイ…！ 私のせいかも(>\_<#)明日もってくねf(^\_^)それにしてもねむいわあ(“o”)～zzz

#### ⑧【無区分】

(55)今日って学食来るでしょ?!

(56)紙本当は昨日までだったのに出すの忘れちゃって。明日は食堂ディズニーのこと話し合うから来てね☆

(57)おはよ～㍻

(58)まじ、疲れた。帰りたい

(59)そっか……おつかれ！

(60)おはよ。本持ってきたけど、どこらへんにいる？

(61)私も金無くてムリなんだよねーそれに今すぐ読みたいわけではないので買ったなら読ましてなー㊦

### 3-2 メッセージの言語的特徴

携帯メールの言語表現にはどのような特徴があるのだろうか。中村(2001)、太田(2001)は携帯メールの言語的特徴を分析しているが、相手による異なりは考察の対象にしていない。これらの分析で扱っているメールをみると、その相手はほとんどが友人だが、表1で明らかなように、友人以外の相手には表現スタイルを変えている。そこでここでは、まず友人に当てたものを中心に携帯メール一般にみとめられる特徴をあげ、その後に相手別でみられる違いについても言及する。

なお、以下の特徴を示す例として、表3の例とその番号を添えるが、他の特徴の例にもなりえるものを含むので留意願いたい(括弧付番号は表3で使用した番号)。

#### 〈1〉話しことばのような(口語的)表現

a)音調表現:長音、「～」、母音伸ばしなど (15)「難しい日程だねえー」、  
(19)「行こうねえ～」、(45)「やんないんですかあ?」

b)終助詞の多用: (11)「バイトが**んばってね**」、(20)「帰り散々だった**ヨ**」

- c) 擬音語: (49)「今日は学校だよ zzz」 (= 眠いの意。s) の項も参照)
- d) 擬態語: (14)「がんば! ダッシュダッシュ」、(23)「おれもボロボロだけど」
- e) 若者ことば: (55)「今日って学食来るでしょ?!」、(58)「まじ、疲れた」
- f) 縮約形・変形: (14)「がんば!」、(15)「あんがと!」、(16)「こないだ」、(18)「かっちょいい〜」、(27)「ちっす!」、(54)「もってくね」、(59)「そっか……」、「おつかれ!」、(60)「おはよ」
- g) 幼児語・まふまふ言葉<sup>(注9)</sup>: (24)「まってるびょ」
- h) 軽卑語: (23)「マサオらしくねーぞ!!」、(29)「話そうぜい」
- i) 感動詞: (18)「くお」、(21)「あはは」、(28)「あ」
- j) 応答詞: (11)「はい」、(24)「うん」、「オッケー」
- k) いいよどみ: (13)「つ、疲れたあ〜」
- l) 助詞の省略: (3)「ご飯食べてく」、(20)「ユニフォームもらえてよかったね」
- m) 体言止: (20)「しかも傘壊れて最悪」、(25)「今授業中〜」
- n) いいさし: (43)「次の日ちょっとつらいかもしれませんが」、(54)「私のせいかも」
- o) 古語: (22)「食そう」、(30)「すまぬー」、「行けませぬ!」
- p) その他: コンテキスト依存で状況が分からないと意味も話題も分からないもの (9)「何の!? ビシャス?」

## ＜2＞書きことば性の利用

- q) カタカナ: (25)「チャーつまんね〜」、(26)「渋すぎだよ」、(47)「ゴメンナサイ」
- r) ローマ字・外国語: (10)「返信はできん× Yoー! 6」、(19)「謝謝」
- s) 漫画の記号: (49)「zzz」 (= 眠い、眠っている、いびきをかいている意)
- t) ことば遊び: (26)「今るん②で家帰って」 (= るんるん、「るん」の2乗の意)
- u) 句読点の省略: 特に句点の省略 (スペース、絵記号、コンマ、セミコロなどで代替)。(25)「今授業中〜 チャーつまんね〜」、(36)「今日



バイト休みます (>\_<) 風邪引いちゃいました (-;-)」、(47)「出られません;; ゴメンナサイ」

- v) 絵記号の多用: 記号 (8)「☆」、「?」、顔文字 (5)「m ( \_ \_ ) m」(8)「(^.^)」、カッコ文字 (16)「(笑)」, (53)「w」(=「笑う」のwaの部分からwだけをとった(w)から派生)

### 〈3〉インターネットの特徴利用

w) 動く絵文字: (14)「ㄣ」

x) 写真、音楽、リンク (今回のデータにはなかった)

「メールだと気軽に話せる」、「昨日メールで話したんだけど……」と若者が自然にいうように、彼らにとって携帯メールのコミュニケーションは「メール会話」、「文字会話」という感覚が強い。しかし対面会話と比較すると制限の強いコミュニケーションであり、特に音声情報と視覚情報が欠如している。メールではこの2つの側面を補完するなんらかの工夫がある。しかし逆に、書き言葉の特長を生かして、対面会話ではできない情報を付け加えたりするといった特徴もみられる。

「〈1〉話しことばのような(口語的)表現」は、対面会話の主に音声的な特徴を補完し、双方から話している会話のような効果を創り出しているといえる。語彙的なレベルにとどまらず、応答詞、感動詞の使用、いいよども、いいさしなど、談話レベルでも対面会話に近づくような表現が用いられていた。いっぽう、「〈2〉書きことば性の利用」は、携帯メールが「書記言語」であることを利用し、主に視覚情報に訴えるものである。とりわけ、句読点を省略したり、絵記号を多用したりする点など、従来の書きことばの規範からの逸脱傾向には著しいものがある。終助詞の多用、その後にあるべき句点の省略、それを代替するようにつけられる絵記号という組み合わせが目立ち、携帯メールの大きな特徴のひとつを形作っている。このことについては後の絵記号の分析で論じる。

このほかここ数年の動きとして、携帯電話のマルチメディア化により、メールに動く絵文字や写真、動画を添えて送ったり、音楽を添えたり、さまざまなサイトとリンクできるようにしたりと、利用内容の幅が広

がってきている。

なお、ここでは例にあげなかったが、データには郷里の友人と方言でメールをしているものもみられた。書きことばでは使用されることが少ない方言が、携帯メールでは地方の若者によって積極的に使われている現象がある。メールの会話的側面が方言使用を促し、若者の仲間意識を高める働きをしているのではないかと考えられる。これに関しては別の機会に考察したい。

中村(1997, 2001)は「文章の長さや漢字などの文章表現は、携帯メールの入力しにくさにも関わらず、あまり省略されない」と述べているが、表3では「親しい友人」へのもの以外はメッセージがかなり短い。内容のいかんにもよるが、携帯メールは気軽にメッセージを往復させることができるので、対面会話のように1メッセージが短くても問題ないのではないだろうか。

相手カテゴリー別には異なる特徴がみられた。【両親】へのメッセージは絵記号などのモダリティー表現が少なく単純である。内容も連絡や日常的な依頼など、実用的な話題が多い。

【姉妹・兄弟】へのメッセージは短かめだが、絵記号などのモダリティー表現はかなりあり、内容も連絡以外にコンサマトリーなものがみられる。

【親しい友人】へのメッセージは、先にあげた言語的特徴をすべて備えていて長いメッセージも多く、内容は最もコンサマトリーなものになっている。【あまり親しくない友人】の場合は、長いメッセージはないが、極端に短くもなく、絵記号などのモダリティー表現もかなり使われている。【親しい友人】に比べると、内容は表面的で友好関係維持のためと思われるものが多い。

【目上】【先輩】には、どちらも「です・ます体」が使用されていて、他のものとの違いを明確に見せているが、絵記号もかなり多く使われている。また、恐縮と緊張を示す表現と絵記号が混入されている((35)「どういたしましてです。」(39)「寝坊したんですうん。」(46)「たのしみにしてまっす☆」)。このような表現レベルの混入を行うことにより、適度な丁寧さと親密さを創り出そうとしているかにみえる。【先輩】に対してのほうがメッセージが長く、内容が関係維持のためのものが多い。

【恋人】へのメッセージも、先にあげた言語的特徴をすべて備えているが、【親しい友人】へのメッセージほど長いものは少ないようだ。長いものはかえって必要ないのかもしれない。内容は情動的なものが多く、(51)「㊦」のように絵記号のみで送信されたものもある。

ちなみに、極端に短いメッセージは、【両親】(6)「南浦和」、【姉妹・兄弟】(12)「遅くなる」にも送られており、このような短いメッセージは最も気心の知れた相手にのみ送ることが可能なようである。しかし、「南浦和」、「遅くなる」の2つのメッセージが日常的に繰り返される行動・取り決めに則った連絡事項であるのに対して、「㊦」は親密な関係の上に立った情愛表現であるという、まったく正反対の性格のものであることに留意しておきたい。

#### 4 文末にみられる配慮と言語表現

日本語は文末に情緒的情報が集中しているといわれる。自己の感情や相手への配慮が主に文末に集中して表現される。表3のメッセージ例をみると、携帯メールにおいても同様な主張ができそうである。そこで、全415メッセージ、859文について、文末項目のうち特に著しい使用がみられたものを集計し考察を行った。考察の対象は、各相手カテゴリーに対して使われる文の「文末の丁寧度」、「句点の省略」「終助詞カ、ネ、ヨ」、「文末伸ばし」、「絵記号の種類」である。

なお、「文」の認定について触れておきたい。「文」の認定は、書きことばの場合は句点のあるところで文が切れると解釈されるのが一般的である。しかし携帯メールの場合は話しことばにたいへん近い「書記言語」であるため、「文」の認定が難しい。そこで今回は意味的に文として成り立つものはなるべく短い単位で切って文とした。したがって、「わーい☆勝ったゾー！」は2文と数える。そのため、これを1文と数えるような方法で分析した場合にはかなり異なる結果がでる可能性がある<sup>(注10)</sup>。

##### 4-1 文末の丁寧度

文末の丁寧度を調べるため、それぞれの文が常体(「だ・る」を使用)、敬体(「です・ます」を使用)、体言止めの3種類のいずれで終わってい

るかを調べた（図11）。

恋人には概ね常体が使用されるが体言止めも多少現れている。親しい友人や姉妹・兄弟に対しては常体が普通だが敬体も多少現れる。体言止めは全体にそれほど多く使用されていないが、姉妹・兄弟や親しい友人に対して比較的多く現れている。目上と先輩には、ほとんど常に敬体が使われているが、常体も皆無ではない。

常体と敬体の使い分けには柔軟性がある。親しい相手にも報告的な内容のときには敬体が現われやすく（(11)「はい、わかりました」）、目上や先輩に対しては、メッセージの一部が常体でも、全体のレベルが敬体であればバランスが保てる（(37)「日本負けちゃったねー、先生仕事で見えなかったんですか？」）。話しことばではこのようなスピーチレベルシフトを行うことが報告されており（生田、井出1983など）、ここでも話しことばに近いスタイルがみえているといえよう。

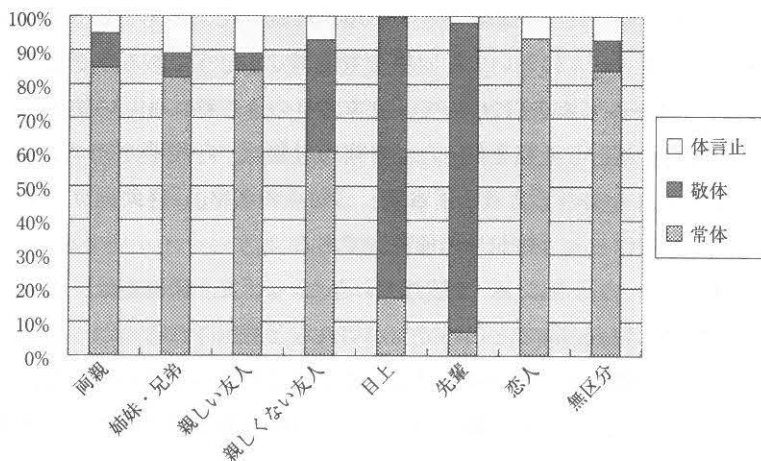


図11 文末の丁寧度

## 5-2 句点

携帯メールには句点（「。」）がたいへん少ない。規範的書きことばであれば句点があると思われる部分には、絵記号が用いられているケースが多い。句点は目上や年上の相手には多く使われている。社会的上下軸の

上に位置する相手に対しては、日本語の規範にある程度則った表記をしている、ということである。なお、図12～図15の数字は、1文における出現の割合(%)を示している。

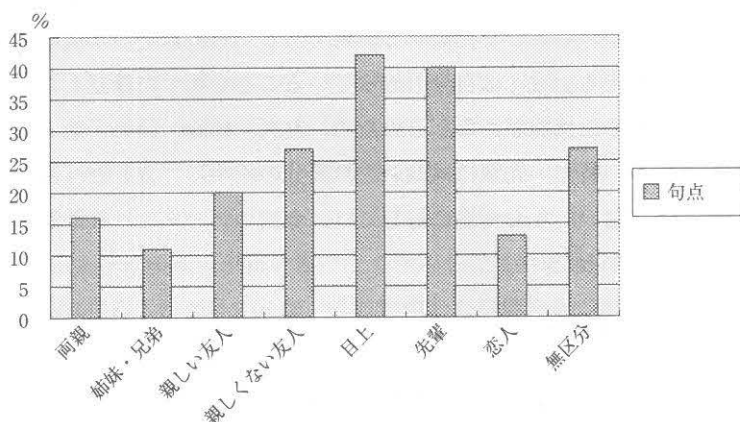


図12 句点

#### 4-3 終助詞「カ」「ヨ」「ネ」の数

質問文に使われることが多い「カ」は、目上、先輩に対して圧倒的に多く使われている。またあまり親しくない友人にも比較的多く使われる。これは目上や先輩とのメール交換がアルバイトやサークルに関連したものが中心で、必然的に相手の指示を仰いだり、知らないことを聞いたり

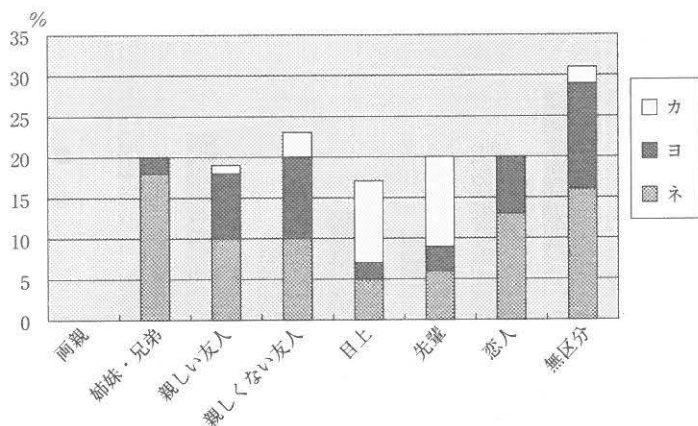


図13 終助詞「カ」、「ヨ」、「ネ」の数

するという情報の送受が多いからであろう。あまり親しくない友人に対しても現れるのは、表3でもみたように、この相手には用件やあいさつなどの内容が多いからであろう。

「ヨ」は目上、先輩、姉妹・兄弟に対して使用が少ない。「ヨ」は話者のほうに情報が多いことを指標する助詞であるため、目上・年上には現れにくいといえる。「ネ」は自分の知っていることを相手に確認したり共感を誘ったりする機能がある。そのため、友人、姉妹・兄弟、恋人には頻度が高いが、目上・先輩には低い。無区分の相手に「ヨ」と「ネ」が多いのは興味深い。なお両親に対しては、今回のデータでは終助詞は使用されていなかった。

#### 4-4 文末伸ばし

「ねー」「かな～」のように文末を伸ばすのは、話しことばのイントネーションを書きことばで表現する工夫であり、規範的な書きことばには現れない。「ー」と「～」を合わせた文末伸ばしの使用傾向は、句点使用とは逆で、親しい友人や兄弟姉妹、恋人、無区分に多く使われ、目上、年上、親しくない友人にはあまり使われない。「ー」と「～」を区別してみると、親しい相手には「～」が多いことに気づく。いっぽう「ー」は無区分の相手に特に多く使われている。これは、「～」のほうがかだけた感じがして感情を強く表現でき、「ー」のほうが無難に誰にでも使えるとい

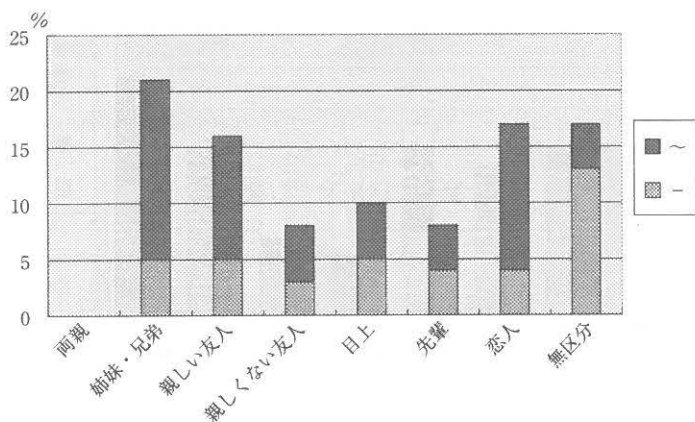


図14 文末伸ばし

う感覚があるからなのかもしれない。なお、両親に対しては文末伸ばしもみられなかった。

#### 4-5 絵記号の種類

絵記号の多用は携帯メールの顕著な特徴のひとつである。メールは書きことばなので、微妙なニュアンスが伝わりにくく、顔の表情や体のしぐさ、声の調子などが伝わらないために誤解が生じたり、相手を傷つけたりしやすい。したがって、「絵文字は感情をうまく表現したり、表現をやわらかくしたりするために添えられる」というのが一般的な説明である。絵文字は実際の事物を描いたイラストで携帯電話に登録されている（機種依存のものが多い）が、これに類した機能をもつ表現として、「顔文字」(m(\_)\_m、(^o^)、(>\_<))、「記号」(？、！、☆)、「カッコ文字」((笑)、(泣)、(爆)、(死)(w))がある。本稿ではこれらを総称して絵記号と呼んできた。

加藤（2002）は携帯メールの絵文字、顔文字、記号の使われ方の調査結果を報告している。それによると、使われ方には一定の傾向があり、喜怒哀楽が直截的な絵文字・顔文字は親友と呼べるような相手に多く使われ、間接的な表現である記号類はごく普通の付き合いの友人に使われる割合が高いという。そしてごく普通の付き合いの友人に対する「☆・♪」の多用は、やや関係に距離を感じている相手への心遣い、配慮だろう」と述べている。本調査でも記号類の使用例が多数みられたが、記号類には顔文字・絵文字と比較して数や使用相手の異なりがみられるだろうか。

ここで、これまで使ってきた「絵記号」という用語について若干の説明を加える。若者の間やマスコミの記事などで携帯電話の話題が出る場合、絵文字、顔文字などの区別が明確でなかったり、絵文字と顔文字を合わせて絵文字といたり、記号も含めて絵文字といたりすることがある。混乱を避けるため本稿では、これらを全部合わせて「絵記号」と呼んできた。元来顔文字は、コンピュータで表示可能な文字・記号を構成して作られたものだが、近年の携帯電話では、顔文字も始めから登録されていたり、顔の形の絵文字が多数登録されていたりして、絵文字と顔文字の区別が曖昧になりつつある。このため、ここでは記号、絵文

字、顔文字を合わせて絵記号と総称し、これらの絵のもつ感情的メッセージの直接性の程度によって再分類し、異なる相手への使用度との関係を検討することにした（数が少なかったカッコ文字は今回の分析からはずした）。

感情の直接性の程度で再分類した絵記号は、Kataoka (1995, in press) を参考に、新しくアイコン、インデックス、シンボルと称することにする<sup>(注11)</sup>。

- ・アイコン：単純化されているが実物を描いたもの。絵文字、顔文字のかなりの部分がここに入る。感情が直接的に表現されやすい。（☹、☺、(>\_<) など）
- ・インデックス：実物そのものではないが、ある事象をさし示し、そこから特定の感情的意味が派生する。（㊦、㊧）
- ・シンボル：意味が特定されているものの、直接的な感情表現性は少ない。（♪、？、！、☆、♥など）

以上の基準でデータの絵記号を分類していった。図15はその3種類が異なる相手によってどのように使われているかをまとめたものである。

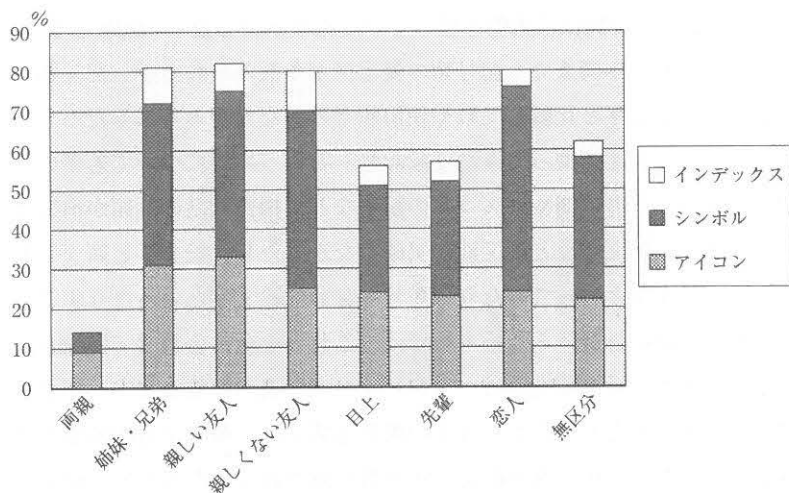


図15. 絵記号の種類



これによると両親に対しては使用が極端に少ない。そこで今回は両親を除外して考察することにする。目上、先輩への数が比較的少ないものの、相手カテゴリーの差による絵記号の使い分けの差はさほど大きくない。最も直接的表現だと考えられるアイコンは満遍なくよく使われていて、親しくない友人にもかなりの割合で使われている。主に記号類が含まれるシンボルは、「関係が遠い人に気軽に使える」といわれるが、恋人や親しい友人にも多く使われている。インデックスは、全体に少な目の使用傾向だが、あまり親しくない友人や姉妹・兄弟にやや多かった。

このデータをみる限り、加藤（2002）とはやや異なる結果を示している。今回の結果からは、絵記号の種類分布は多少異なるものの、兄弟、親しい友人、親しくない友人、恋人に対してほぼ同数の絵記号が使われるということがわかった。また、シンボルのように直接的な感情表現性が少ない記号が、恋人に多く使われていることもわかった。ここから考えられる可能性としては、絵記号が異なるカテゴリーの相手に対して、異なる目的で使われているということである。これは「メールの書き方で気をつけていること」への回答からも示唆されていた。親しい相手には、その親しさを増幅・確認する手段として使われるが、それほど親しくない相手には雰囲気を楽しむしたり、気楽な気持ちにさせる手段として使われるということである。若者に絵文字や顔文字を選ぶ基準を直接聞いてみると、直接的か間接的かというよりも、ボタン操作の多寡や指の位置の使いやすさなどがかなり関係しているようである。これは見方を変えれば、その程度の意味しかもち得ないほど、これらの絵記号が多用され、本来の意味が希薄化しているといえるのである。絵文字、顔文字、記号の数とバラエティーが増えたり一般化したりすることによって、その表現内容のインパクトが弱まり、意味の希薄化が進行し、気軽に雰囲気を作ったり間を埋めたりするために使われるようになっている。句点があるべきところに頻繁に絵記号が使われている事実は、このことを裏付けるとともに、絵記号がメッセージの意味の部分を担当というより、雰囲気やイメージをやわらかくするためのコンテキスト作りに頻繁に使われていることを示しているといえよう。高本（1993）はパソコン通信におけるフェイスマークの機能について、対面調整機能とコンテキスト

化をあげているが、携帯メールにおいては、絵記号全部がコンテキスト化を担いながら対面調整をしているといえるのかもしれない。

最後に指摘しておきたい点がある。絵記号に関しても、両親に対しての使用がたいへん少なかったということである。これまでみてきたように、両親に対するメッセージの特徴が、ほかの人物カテゴリーに対するものと最も異なっていた。両親に対しては何らかの用件で連絡することが多く、社交的な内容も少ないことから、この結果はある程度納得のいくものではある。しかし、これを対人関係調節という観点から捉え直すと、両親は若者にとって最も安定した関係の相手であり、それゆえ最も配慮をしないですむ相手であり、それがメールの短いメッセージ、文末表現の少なさ、実用的表現などに現れているのだと考えられよう。いっぽう、距離的観点からいえば近い関係にあるとはいえ、親しい友人や恋人に対しては、親しくない人や目上・先輩への配慮と質は異なるものの、配慮自体はかなり行われているのである。

## 5. まとめ

以上みてきたように、若者の携帯メールの相手は、家族、友人、バイトの目上やサークルの先輩といった、かなり限られた社会関係を結んでいる人たちであった。三宅（1994）の対人関係のウチ、ソト、ヨソの基準でいえば<sup>(注12)</sup>、ウチとソトの一部のみの狭い付き合いである。しかし今回親しい・頻繁に会う友人以外の相手にも調査の焦点を当てたことにより、明らかになってきたことがある。若者の携帯メールのメッセージは、相手によって言語表現も内容も異なりをみせるということである。これは、若者の形づくる狭い社会の中でも、相手に合わせた異なる配慮とコミュニケーションが求められているからである。

野村（2001）は文化庁で毎年行っている『国語に関する世論調査』を整理した結果として、多くの国民が将来に求めているものは「相手への配慮を表しつつ意思や心情を平明・的確に伝え合うことを基調とし、人間関係の円滑な営みを進めてゆく言葉遣い」であるとした。『平成9年度国語に関する世論調査』（文化庁 1997）の若者の回答部分をみても、相手への配慮と適切な言語表現を強く求めていることが示されている。言

葉づかひの乱れや行動規範の欠如を非難されることの多い若者だが、日本社会の規範的な考え方からそう遠くないことを希求していることが、今回の調査からも示されたといえるのではないだろうか。

若者の携帯メールを分析してみえたのは、異なる言語表現の使い方であり、そこでは規範から逸れた言語表現、言語行動を実現したり模索したりしているといえる。目上や先輩に対して「です・ます」使用を基準としながらも、口語調の言語表現を使ったり絵記号を使ったりしながら、従来の対人関係で期待される言語表現とはやや異なった言語世界を創り出している。これも対面会話ではなく、距離感と密室性を同時に兼ね備えた携帯メールのようなメディアが容易にしてくれる部分であろう。社会規範からの制約を強く受けない携帯メールの表現が、若者の内面をより強く反映しているといえるのかもしれない。携帯電話に現れるコミュニケーションの形は、今後の日本語、日本社会を考える上で興味深い切り口を多面体でみせてくれているように思われる。

本研究は、言語表現と配慮の関係について対人関係を軸に考えた。言語表現に関して今回は文末を中心に焦点を当て、文末以外の語彙の選択に関してはほとんど手がつけられなかった。また、「終助詞＋句読点省略＋絵記号」の組み合わせ、絵記号の種類、使用の頻度についてもさらに綿密な分析が必要である。配慮に関しては、カテゴリーによってその内容や質に違いがあるかについて考える必要がある。いずれも今後の課題である。

#### 注

- <sup>1</sup> 本稿での「携帯電話」は、PHSを含む携帯マルチメディア端末をさすこととする。
- <sup>2</sup> ここでは「言語行動」を言語表現、言語態度、言語意識までを含む広い意味の言語活動、コミュニケーション行動とほぼ同意義で使う。
- <sup>3</sup> 中村（2001）はこれを「自己充足性」、三上、辻（2001）では「即時充足的」と訳している。コンサマトリーの根本的な意味は「関係性を充足させる」ことにあると考えられる。
- <sup>4</sup> ここでは「携帯メール」をショートメッセージ、携帯電話のEメールを含む

携帯電話を利用した文字通信をさすこととする。

- 5 今回、携帯電話の履歴に残っていたものをアンケート紙上を書いてもらう方式をとった。そのため、パソコンに取り込むとき起こる「ゲタをはいた」状態は回避できた。しかし、手書きなので絵文字を正確に描写できない、動く絵文字は描写が難しい、スペースの有無が不明確、疑問符など全角か半角かに明確さを欠く、などの問題が浮上した。「生データに近い」という表現はそのためである。
- 6 朝霞キャンパスで1～2年生に開講されている科目である。アンケート実施に当たっては科目担当の坂詰力治先生に惜しみないご助力をいただいた。記して感謝申し上げる。
- 7 ここでいう携帯メールとは、ショートメッセージ系（キャリアのホストコンピュータ経由で文字交換を行うもの）とEメール系（携帯電話を用いてインターネット経由で、インターネットのメールアドレスともメール送受信を可能にしたもの）を含む。
- 8 若者向けの音楽雑誌など趣味の雑誌の文章スタイルの影響も大きい。若者のこれまでの短い人生の中で、どのような種類の本や雑誌を読んできたか、どのような文章を書いてきたかが大きく関係している。
- 9 俵（1993）では、摩擦音や破裂音の回避、拗音化などの音変化をともって幼児が話すような言葉づかいの効果をあげているものを「まふまふ言葉」といつている。
- 10 例えば、(18)「くお<sup>や</sup>かつちよいい〜<sup>や</sup>頑張ってねん<sup>ん</sup>堂々とね!!」は本研究では4文と数えたが、別の見方をすれば1文と考えることもできる。4文とする場合は1つのメッセージに4文があり、それぞれの文の文末に絵記号が1つずつついている計算になる。しかし、もうひとつの見方をすれば1メッセージに1文があり、その中に4つの絵記号がついているということになる。
- 11 Kataoka（1995、in press）は、少女たちが私的に取り交わす手紙類を取り上げ、そこに現れたさまざまな形の情緒表現を分析している。本研究で用いたアイコン、インデックス、シンボルの分類は、片岡で定義されたものを参考に考えた分け方である。
- 12 三宅（1994）では、自己を取り巻く人間関係をウチ、ソト、ヨソの3層に分けて説明し、ウチを自分の周りの家族のようなきわめて身近な人間群、ソトを仕事や近所で普段から自分に関連している人間群、ヨソを普段関係することのない、通りすがりの人や何かの時間や場所をたまたま共有した人間群をさすとした。

#### 参考文献

Brown, P. & S. Levinson (1987) Politeness: Some universals in language usage.

- 文化庁 (1997)『平成9年度 国語に関する世論調査』財務省 (旧大蔵省) 印刷局
- 生田少子、井出祥子 (1983)「社会言語学における談話研究」『言語』Vol.12, No.12 大修館書店
- 岩田考 (2001)「携帯電話の利用と友人関係」『モノグラフ・高校生 VOL63』  
<http://crn.or.jp/LIBRARY/KOU/VOL630/index.html>
- 岩間夏樹 (1995)『戦後若者文化の光芒』日本経済新聞社
- Kataoka, Kuniyoshi (1995) Affect in Japanese Women's Letter Writing : Use of sentence-final particles Ne and Yo and orthographic conventions. *Pragmatics* 5 : 4, 427-453.
- Kataoka, Kuniyoshi (in press) Form and function of emotive pictorial signs in casual letter writing. *Written Language & Literacy* 6 : 1, 1-29.
- 加藤安彦 (2002)「古い皮袋、新しい皮袋」『社会言語科学』第4巻第2号 社会言語科学会
- 松田美佐 (2000)「若者の友人関係と携帯電話利用」『社会情報学研究』4 日本社会情報学会
- 三上俊治・辻大介 (2001)「大学生における携帯メール利用と友人関係」平成13年度 (第18回) 情報通信学会大会 (2001年6月17日) 配布資料
- 三宅和子 (1994)「日本人の言語行動パターン」『筑波大学留学生センター論集』第9号 筑波大学
- 三宅和子 (2000)「ケータイと言語行動・非言語行動」『日本語学』特集／ケータイ・コミュニケーション Vol.19, No.12 明治書院
- 三宅和子 (2001)「ポケベルからケータイ・メールへ」『日本語学』特集／ケータイ・メール Vol.20, No.10 明治書院
- 内閣府 (2002)「第4回情報化社会と青少年に関する調査の概要」  
<http://www8.cao.jp/youth/kenkyu/top.html>
- 仲島一郎、姫野桂一、吉井博明 (1999)「移動体電話の普及とその社会的意味」『情報通信学会』59号 (16巻3号)
- 中村功 (1997)「生活状況と通信メディアの利用」水野ほか編『情報生活とメディア』北樹出版
- 中村功 (2001)「携帯メールの人間関係」『日本人の情報行動2000』東京大学社会情報研究所
- 野村敏夫 (2001)「国民の言葉意識」『日本語学』特集／ことばについての意識 Vol.20, No.8 明治書院
- 太田一郎 (2001)「パソコン・メールとケータイ・メール」『日本語学』Vol.20, No.10 明治書院
- 大平健 (1997)『やさしさの精神病理』岩波書店

- 千石保 (1994) 『マサツ回避の世代』 PHP
- 高橋勇悦 (1988) 「大都市青年の人間関係の変容—1.5次関係の概念に関する覚え書き—」『社会学年報』17 東北社会学会
- 高本條治 (1993) 「パソコン通信におけるフェイスマークの機能」『日本語学』Vol.12, No.13 明治書院
- 依万智 (1993) 「パソコン通信と『まふまふ言葉』」『現代のエスプリ』特集／メディアコミュニケーション No.306 至文堂
- 辻大介 (1999) 「若者と対人関係」『東京大学社会情報研究所紀要』No.57 東京大学

## 大学生の携帯電話利用アンケートのお願い

2002年7月1日

大学生の携帯電話とコミュニケーションの関係を探る調査にご協力ください。調査は研究目的以外には使用しません。調査結果は後日ご報告いたします。携帯電話をもっていない人は差し支えなければその理由を空いているスペースにお書きください。

問1 あなたは男／女（○で囲む） 年齢 \_\_\_\_\_ 歳

問2 あなたの携帯電話（含 PHS）の会社名（例 J-phone、NTT ドコモ i モード、au など） \_\_\_\_\_

問3 携帯電話のメールと通話の使用頻度について答えてください。

1) 1日平均何回くらいメールを送りますか。 \_\_\_\_\_ 回

2) 1日平均何回くらいメールを受け取りますか。 \_\_\_\_\_ 回

3) メール送信に1日平均何分くらい使いますか（含作成時間）。 \_\_\_\_\_ 分

4) 受信メールを読むのに1日平均何分くらい使いますか。 \_\_\_\_\_ 分

5) 1日平均何回くらい携帯電話で通話しますか。 \_\_\_\_\_ 回

6) 1日平均何分くらい携帯電話で通話しますか。 \_\_\_\_\_ 分

7) メールと通話以外に、携帯電話のどのような機能を使っていますか。以下の該当する番号全部に○をつけてください。

①時計

②目覚まし・スケジュール

③電卓

④辞書

⑤HP 閲覧

- ⑥ウェブの情報を見る（天気、電車の時刻など）
- ⑦ウェブからのダウンロード
- ⑧その他（具体的に書く \_\_\_\_\_）
- 8) メール、通話、その他の使用を全部合わせると、携帯電話に使っている時間は1日にどれくらいですか。 \_\_\_\_\_時間 \_\_\_\_\_分
- 9) 携帯電話を ON にしている時間は1日何時間ですか。  
約 \_\_\_\_\_ 時間
- 10) 携帯電話を OFF にしているときはどんなときか書いてください。  
\_\_\_\_\_

問4 携帯電話の電池切れを避けるために、普段どうしていますか。  
(例「電池を持ち歩いている」)  
\_\_\_\_\_

問5 携帯電話の通話機能を使って連絡を取らない人たちはどのような人たちですか。  
\_\_\_\_\_

問6 携帯電話のメール機能を使って連絡を取らない人たちはどのような人たちですか。  
\_\_\_\_\_

問7 携帯電話のアドレスに番号登録している人数。その中でメール登録もしている人数。 \_\_\_\_\_人 約 \_\_\_\_\_人

問8 携帯電話のメール機能で連絡し合う相手の人数について聞きます。

- 1) 1日に1回以上連絡し合う人 約 \_\_\_\_\_人
- 2) 3日に1回以上連絡し合う人 約 \_\_\_\_\_人
- 3) 1週間に1回以上連絡し合う人 約 \_\_\_\_\_人
- 4) 1か月に1回以上連絡し合う人 約 \_\_\_\_\_人
- 5) 1年に数回以上連絡し合う人 約 \_\_\_\_\_人



6) ほとんど連絡し合わない人 約 \_\_\_\_\_ 人

問9 携帯メールの送信で、書き方に気をつけていることがあれば教えてください。

問10 携帯メールの言葉づかいを相手によって変えている人は、相手を大まかに何種類くらいに分けていますか。例にならってグループに分け、どのように使い分けているか書いてください。

言葉づかいを変えない人は、「どんな相手でも同じ」と書いてください。

〈例〉

- ①親しい友人、妹：くだけた口調、絵文字、顔文字あり
- ②あまり親しくない友人・両親：ていねい語（です・ます）、記号（☆♪）少し
- ③目上・先輩：ていねい語、絵文字・顔文字なし
- ④恋人：甘えた口調、絵文字多用

問11 問10で分けた相手へのメールの例をあなたの携帯電話の送信履歴から選び、下の例のようになるべく正確に書き写してください。

言葉づかいを変えない人は、自分の典型的な書き方の例を選んで書いてください。

（注：メールが送信履歴に残っていない時は、〈作例〉と書いてその相手に書きそうなことを書いてください）

〈例〉

- ①ははは㊦やめとけ㊦いまレポート中㊦またあそんで㊦
- ②今日はご飯食べて帰るので用意しないでください
- ③〈作例〉先日はビデオありがとうございました。またいろいろ教えてください。
- ④おはよー㊦今日一緒に帰れるね㊦夕飯は何を食べる？ 私はラーメンがいいな㊦